第２６回 Re-Seed セミナー

「今後の不動産市況の最新動向と有望分野～グローバルから見る東京の市場～」

■開催日時：2019.7.19（金）15：00～17：00

■講　　師：ジョーンズ ラング ラサール 株式会社　リサーチ事業部　ディレクター　大東 雄人 氏

＜略　歴＞ 平成 10 年 立命館大学産業社会学部卒。平成 13 年 ボストン大学修士課程卒、金融経済専攻。ボストン、ニューヨークで不動産仲介業に従事。平成 17 年 国内事業会社で、利益剰余金の運用、投資先の調査・財務分析、ポートフォリオマネジメントを担当。平成 19 年 ジョーンズ ラング ラサール 株式会社　リサーチ事業部に入社。日本の不動産市場におけるマクロ分析、投資分析、市場予測など、全般的なリサーチ業務に従事。主に国内外の投資家向けに同社が発行する定期市場分析レポートにおける東京・大阪市場の取りまとめを行う。平成 21 年にはプロジェクトリーダーとして、新たに大阪オフィスセクターのリサーチ業務を拡大。JLL の各海外拠点との共同業務や海外投資家への対応、プレゼンテーションを含む市況説明を担う。同社で 2 年に 1 度行われる「グローバル不動産透明度調査」では日本を担当。

■講座概要：足下の日本の不動産市場は、好調な日本経済に支えられ、不動産投資活動は活況を呈しています。企業は、人手不足から、優秀な人材獲得と業務の生産性を高めるために、新築の大型オフィスビルに移転・集約する動きが顕著であり、新築の大型ビルは軒並み高稼働状態が続いています。オフィス以外でも、e コマースの増勢と人手不足から、生産性の高い大規模物流倉庫のニーズは根強く、供給も高水準で推移しています。また、ホテルの新・増設は、インバウンド観光需要の増大と民泊の伸び悩みもあって、マンション価格の高騰の一因と指摘されるほど、絶好調です。しかし、米中貿易摩擦に端を発したグローバルな景気の後退は日本にも飛び火し、中国向を中心に輸出や鉱工業出荷が鈍化するなど、我が国においても景気減速感が台頭しており、今後は設備投資意欲の消極化に伴う不動産実需の減退や、海外からの対日不動産投資の減少も懸念されます。そういう意味で、不動産関係者にとっては、今後の不動産市況の動向と有望分野について、かつてないほど関心が高まっている状況かと思われます。本セミナーでは、ジョーンズ ラング ラサール 株式会社のリサーチ事業部で活躍されている講師から、今後の不動産市況の最新動向と有望分野について報告をしていただきました。